

DATE

専門書：映画・芸術関係者・マスコミ・法曹関係者

戦後映倫関係資料集

全3回 全10巻 + 別冊

中村 秀之 解説

終戦を迎え、戦時色の強い国策映画の制作から解放された映画界は、今度は GHQ 統治下にて、表現の制限を設けることになった。最終的には映画関係者によって、1949 年「映画倫理規程管理委員会（旧映倫）」を設立、その後の組織改編等を経て、現在の「映画倫理機構」になった。

この「戦後映倫関係資料集」は、旧映倫時代の資料を中心に、表現の自由と自主的な規制の狭間で何が問題視され、どう解釈されていたのか、創作に携わる人々にとっても無視し得ない「基準」となる貴重な報告集である。関係者の大いなる議論に資するものとなれば幸いである。

クレス出版

戦後映倫関係資料集 (全10巻) の刊行にあたって

中村 秀之

公衆に向けて上映される映画作品はたい... 何らかの社会的な統制を被ってきた。統制の型はおおむね2つに分かれる。官庁による「検閲」と民間主体の「自主規制」である。日本においては、戦前戦中までが内務省、敗戦後は占領軍が、それぞれ厳格な検閲を続けた後、占領期末期に民間の「映倫」が設立されて自主規制へと移行し、今日に至っている。

映倫自身も変化した。GHQ/SCAP の働きかけで1949年6月に業界内の自主規制機関として設立された「映画倫理規程管理委員会」は56年12月で活動を終え、翌57年からは業界外の第三者機関である「映倫管理委員会」が業務を引き継ぎ、その後の改称と改組を経て現在では映画倫理機構(2017年発足)の「映画倫理委員会」が審査とレイティングをおこなっている。そのため最初の映画倫理規定委員会は「旧映倫」と呼ばれて区別される。

とはいえ、旧映倫は単なる過渡期の産物ではない。それどころか映画表現の社会統制の歴史において他に類のない独特な存在だった。まず、占領軍の映画担当者の強い意向で立ち上げられ、民主化を目的とする実質的な検閲の機能を担わされた。次に、同じく占領軍担当者の要請でハリウッド映画の自主規制をモデルとしたにもかかわらず、映画産業の内部に設置された純然たる自主規制の機関である点で実はハリウッド

の体制とは異なっていた。そのような組織の特性に対して世論や政界から激しい批判を招いて対応を迫られることになった。――これらは映画表現の自由と統制の問題を考える上で今日においても貴重な手がかりを与えてくれる特質である。

本書は、その旧映倫の活動の記録を「映画倫理規程審査報告」(1~19号)と「映画倫理規程審査記録」(20~90号)を中心に、全10巻の影印本として刊行するものである。毎月作成された「審査報告/記録」には、審査された脚本と完成版映画のリストが掲載され、審査概要には作品ごとに委員会から出された改訂や演出上の注意に関する「希望」が具体的に記されている。約7年半の活動の間に審査を終了した脚本は2,685本、脚本の改訂や演出上の注意は4,556件を数える。審査された完成版映画は短編や予告編を含めて6,489本、修正改訂希望は609件だった。さらに管理部の記事として、そのときどきの映画をめぐる状況に対する委員会の見解や説明などが掲載されている。ちなみにこの時期は日本映画の戦後の黄金時代と重なる。

このように、本書が映画研究にとって第一級の基礎資料であることは言うまでもないのだが、さらに、歴史学、社会学、法学など、広範な領域での活用が期待される。

第1巻

(映画倫理規程審査報告 第1号より) 「獄門島(前篇)」の各審査結果を抜粋

審査報告抜粋: 國家及社会、訂正希望事項、法律、戒除施設、注意希望事項、死体発見(殺戮の遺棄)の描写、死体発見(殺戮の遺棄)の描写、死体発見(殺戮の遺棄)の描写...

第8巻 審査記録 別冊 (外国映画)

審査記録別冊: OLIVER TWIST (オリヴァ・ツイスト) の審査結果、怪僧ラスプーチン (RASPUTIN) の審査結果、監査委員の意見...

(審査記録 別冊 第4号より) 「オリヴァ・ツイスト」 審査結果

(審査記録 別冊 第8号より) 「怪僧ラスプーチン」 審査結果

第7巻 「太陽の季節」問題

審査記録 第82号 脚本審査の結果: 太陽の季節 (日活) 製作 水ノ江滝子 脚本 古川卓巳 原作 石原慎太郎 監督 古川卓巳...

審査記録 第83号 地方からの意見

映画倫理規程管理委員会委員長 成人向指定映画「太陽の季節」上映等指図について、成人向指定映画「太陽の季節」上映等指図について...

戦後映倫関係資料集 全3回全10巻 + 別冊 (全て税込)

第1回配本 全3巻 (2019年7月刊行)

- 第1巻 映画倫理規程審査報告
 第2巻 映画倫理規程審査記録(1)
 第3巻 映画倫理規程審査記録(2)
※第1号～第19号までは「映画倫理規程審査報告」表記。以降は末尾「記録」表記に変更。
 揃定価 66,000円 ISBN 978-4-86670-060-1

第2回配本 全3巻 (2019年12月刊行)

- 第4巻 映画倫理規程審査記録(3)
 第5巻 映画倫理規程審査記録(4)
 第6巻 映画倫理規程審査記録(5)
 揃定価 66,000円 ISBN 978-4-86670-061-8

第3回配本 全4巻 (2020年4月刊行)

- 第7巻 映画倫理規程審査記録(6)
 第8巻 映画倫理規程審査記録(7)
 審査記録別冊(外国映画)
 第9巻 審査概況
 第10巻 調査資料等
 揃定価 88,000円 ISBN 978-4-86670-062-5
 全巻揃 220,000円 ISBN 978-4-86670-063-2
 A5判/上製函入/クロス装/C3374

戦後映倫関係資料集 別冊 (2021年3月刊行)

- 解説、作品一覧
 定価 22,000円 ISBN 978-4-86670-083-0
 A5判/並製/C3074

■ 各巻収録一覧 ■

第1巻 映画倫理規程審査報告
 映画倫理規程審査報告 第1号～第15号

第2巻 映画倫理規程審査記録(1)
 映画倫理規程審査報告 第16号～第19号
 映画倫理規程審査記録 第20号～第26号

第3巻 映画倫理規程審査記録(2)
 映画倫理規程審査記録 第27号～第38号

第4巻 映画倫理規程審査記録(3)
 映画倫理規程審査記録 第39号～第50号

第5巻 映画倫理規程審査記録(4)
 映画倫理規程審査記録 第51号～第62号

第6巻 映画倫理規程審査記録(5)
 映画倫理規程審査記録 第63号～第75号

第7巻 映画倫理規程審査記録(6)
 映画倫理規程審査記録 第76号～第87号

第8巻 映画倫理規程審査記録(7)
 審査記録別冊(外国映画)
 映画倫理規程審査記録 第88号～第90号
 審査記録別冊(外国映画) 第1号～第9号

第9巻 審査概況
 映画倫理規程審査概況
 昭和26年 第1・4半期、第2・4半期、第3・4半期、第4・4半期
 昭和27年 第1・4半期、第2・4半期、第3・4半期、第4・4半期
 昭和28年 第1・4半期、第2・4半期、第3・4半期
 昭和29年 第2・4半期

第10巻 調査資料等
 日本映画連合会調査資料
 第5号 各国映画界情報
 第6号 総司令部回状八号解説、外国著作権に関する覚書、イギリス映画界事情、外国映画情報
 第9号 全作品の分析、映画倫理規程の審査(1950年)
 第10号 時代劇に関する世論抽出
 マスコミュニケーションに於ける倫理基準施行の概況

戦後映倫関係資料集 別冊
 解説、映画倫理規程審査記録(含報告)および審査記録別冊(外国映画)の各作品一覧

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町14-5 メローナ日本橋
 ☎(03)3808-1821 ☒(03)3808-1822 <http://www.kress-jp.com/>

●書店名



株式会社クレス出版